

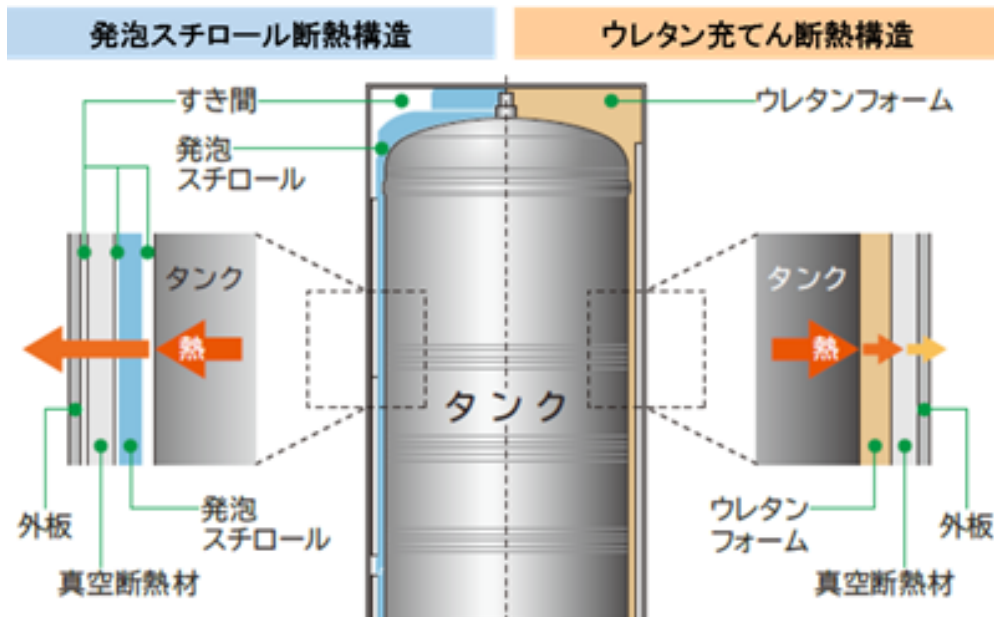
電気温水機器の効率向上 に関するアンケート調査について（案）

令和元年 12月 18日
資源エネルギー庁

1. 効率向上技術の違い

- 電気温水機器は、多様な技術により効率向上を図っており、全ての技術の進歩を各製造事業者等に一様に求めることは困難。また、効率の高い製品のみを勘案して基準の策定をすることにより経済的に見合わない機器の購入を消費者に求める可能性がある。
- 様々な技術によるエネルギー消費性能の向上の程度や技術の普及について、その違いを考慮したトップランナー基準を検討すべき。

ウレタン断熱材による断熱性の向上の例



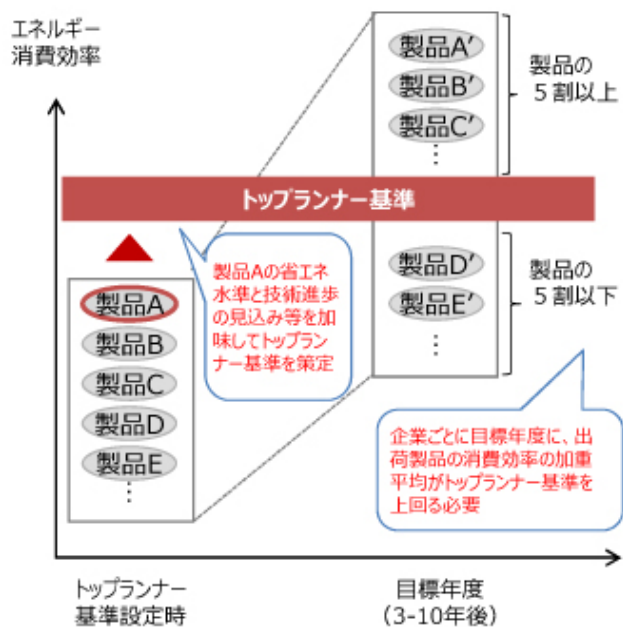
技術の例

- ウレタン断熱材による断熱性の向上
- エジェクター技術による冷凍サイクルの効率化
- 貯湯ユニットのぬるま湯の活用によるムダの軽減
- 多数の温度センサー搭載によるきめ細かな温度管理

2. アンケート調査の実施

- トップランナー制度では、エネルギー消費効率が最も優れている機器（トップランナー）の省エネ水準に、技術開発の将来見通しを加味したトップランナー基準を期限（目標年度）を決めて策定し、製造事業者等に対して目標年度において、出荷台数に応じて加重平均したエネルギー消費効率が目標基準値を上回ることを求めている。
- 多様な技術によるエネルギー消費効率向上の程度や、その技術の普及率の見通しを考慮し基準を検討する。このため、省エネに関わる技術のポテンシャルについて製造事業者等に対するアンケート調査により把握する。
- アンケート調査では、技術による「エネルギー消費性能の向上の程度」、技術の「導入や普及」の見通し、技術の「コスト」等についてアンケートを行う。併せて、電気温水機器の普及に向けた各製造事業者等の取組についても調査を行う。

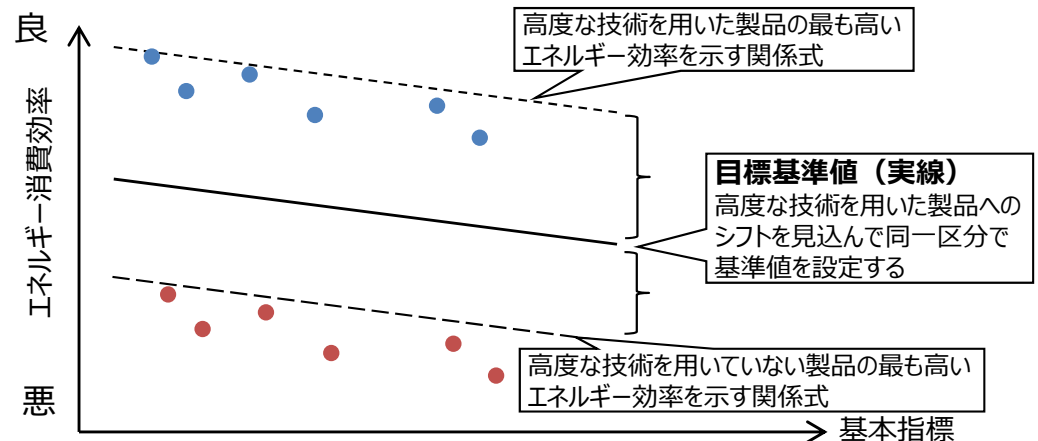
トップランナー制度の仕組み



原則5 高度な省エネ技術を用いているが故に、高額かつ高エネルギー消費効率である機器等については、区分を分けることも考え得るが、製造事業者等が積極的にエネルギー消費効率の優れた製品の販売を行えるよう、可能な限り同一の区分として扱うことが望ましい。

(出所) 「特定機器に係る性能向上に関する製造事業者等の判断基準の策定・改定に関する基本的考え方について」

原則5のイメージ



- 現行製品のエネルギー消費効率（高度な技術あり）
- 現行製品のエネルギー消費効率（高度な技術なし）